

5 劉迎勝 Liu yingsheng『《回回館雜字》与《回回館訳語》研究』(西域歴史語言研究叢書) 北京. 中国人民大学出版社 2008.

東京で購入. いわゆる「華夷訳語」のうちペルシア語を対象とした『回回館かいはいかん』の初の本格的な研究書と思われる. 一見したところ, 当時の漢語音に基づきこの資料が編纂された時代のペルシア語を再構成する, という言語学的なアプローチではないようだ. ペルシア語の転写では母音 \bar{i}/\bar{e} , \bar{u}/\bar{o} がそれぞれ区別されていないが, 区別がなかったと考える理由はないし, 何よりも漢字表記は \bar{i}/\bar{e} , \bar{u}/\bar{o} を書き分けているように(素人目にも)見える. いくつかの語について, 左に本書の転写, 訳語と漢字音写, 比較のためのタジク語形式を示す.

umīd「望」	兀乚得	cf. Taj. умед
amīr「官」	阿米儿	cf. Taj. амир
bī-rang「淡」	別郎克	cf. Taj. беранг
bīst「二十」	必思忒	cf. Taj. бист
tīz「急」	貼子	cf. Taj. тез
tīr「箭」	梯儿	cf. Taj. тир
dīwār「牆」	迭洼儿	cf. Taj. девор
dīnār「金錢」	底納儿	cf. Taj. динор
sīr「飽」	些儿	cf. Taj. сер
sīr「蒜」	西儿	cf. Taj. сир
dūst「愛」	多思忒	cf. Taj. дўст
dūr「遠」	都儿	cf. Taj. дур
sūkhtan「燒」	鎖黑貪	cf. Taj. сўхтан
sūra「篇」	蘇勒	cf. Taj. сура
zūr「力量, 暴力」	佐儿	cf. Taj. зўр
ma'zūr「恕罪」	默阿卒儿	cf. Taj. маъзур

例えば「淡」と「二十」では, 別 $pi\epsilon$ と 必 pi という異なる漢字を用いることで第1音節の $b\bar{e}(-rang)$ と $b\bar{i}(st)$ という母音の違いを表わそうとしたことは明らかである. ちなみに同じことはチュルク語資料『畏兀兒館訳語ういぐるかんやくご』にも見られる:

「五」	別失	cf. Uyg. bāš
「一」	必兒	cf. Uyg. bir